

# SHOW HEYシネマルーム

★★★

## シャンハイ・ナイト

配給/タッチストーン・ピクチャーズ  
and スパイグラス・エンターテインメント

2003 (平成15) 年11月16日鑑賞

### Data

監督: デヴィッド・ドブキン

出演: ジャッキー・チェン/オーウ

エン・ウィルソン/ファン・  
ウォン/エイダン・ギレン/

トーマス・フィッシャー/ド

ニー・イェン/アーロン・ジ  
ョンソン

## 👁️👁️ みどころ

時代は19世紀末。舞台はビクトリア女王が統治するロンドン。ジャッキー・チェンが相棒のちょっと頼りない金髪的美男子と共に中国皇帝の玉璽の強奪者とイギリス王室の転覆を狙う悪党を相手に大暴れ。ジャッキー・チェンの活劇はいつ観ても楽しいが、彼もさすがにちょっと老けたかな・・・？

— \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \*

### <時代は1887年>

19世紀後半の1887年、ビクトリア女王が統治する大英帝国は、小さな島国ながら世界の最強国として君臨していた。

その時、中国は・・・。時代は清朝。皇帝が住む北京の紫禁城には、皇帝の玉璽（皇帝が使用する印鑑のこと）を守る老人チョンとその愛娘リン（ファン・ウォン）がいた。

私がつい先日（03年11月1～4日）の北京旅行でつぶさに見学してきたあの紫禁城だ。

ここに不思議な賊が・・・。青龍刀を持った男たちを指導するのは、何と銃を持った英国人のラズボーン卿（エイダン・ギレン）だ。リンはカンフーの使い手だが、多勢に無勢。その奮闘も及ばず、父は殺され、玉璽は奪われてしまった。

そんな時、新大陸アメリカの西部カーソン・シティには、腕利きの保安官として暮しているリンの兄のチョン・ウエン（ジャッキー・チェン）がいた。妹のリンから父の訃報を受けたウエンは、直ちにイギリスに渡ることを決意せざるをえなかった。

### <ウエンの相棒は楽しいヤンキー男>

ウエンの相棒は、「シャンハイ・ヌーン」(00年)に続いて、金髪のハンサム男ロイ・オバノン(オーウェン・ウィルソン)だが、役に立つのか立たないのかよくわからない。「似た者同士」とはよく言ったもの……。

ニューヨークのリッツ・ホテルで美女たちに囲まれているロイを捜しあて、預けていた全財産が必要だと迫るウエンに対するロイの返事は……？

まあ、ジャッキー・チェンの映画は、それでも何とかなるから、面白い……。

### <メインの舞台は19世紀末の世界都市ロンドン>

当時ロndonは世界屈指の大都会。冬は寒く、霧が多いので決して過ごしやすい街ではないが、その賑やかさは世界一……。だから、その下町には、飯も食えなくてスリを働く少年チャーリー(アロン・ジョンソン)も。

ロンドン下町のイメージは、あのオードリー・ヘップバーン主演の『マイ・フェア・レディ』(1964年)の中で、下町娘「イライザ」が住んでいた街のイメージと実にぴったり。そして面白いことに、このスリの少年は後日チャーリー・チャップリンになるらしい……？

妹のリンは、ラズボーン卿を狙った罪で逮捕され、今はロンドンの牢獄の中。この情報をウエンに与えたのは刑事のアーサー・ドイル(トーマス・フィッシャー)。何でも彼は後に、あのシャーロック・ホームスの小説を書いたコナン・ドイルになるらしい。ホンマかいな……？

### <カタキ役は2人の大物>

イギリスの王家におけるラズボーン卿の王位継承順位は現在第10位。先順位の9人が一挙に死亡しない限り承継できないのだから、一般的には承継の可能性は極めて薄い。しかしラズボーン卿は真剣にその継承を考えていた。

もう1人のワルは玉璽を盗もうとしたために、清王朝の皇帝から追放された皇帝の実の兄、ウー・チャウ(ドニー・イェン)。この2人が、ラズボーン卿は玉璽を奪い、ウー・チャウは先順位の王位継承者たちを亡きものにするることによって、共にイギリスの国王と清王朝の皇帝の地位に就こうと企んでいたのだ。

そしてその犠牲となったのが、玉璽を守っていたチョン・ウエンの父親だ。

### <いつ観ても楽しいジャッキー・チェン流活劇>

1970年代を飾った、『ドラゴン 怒りの鉄拳』(72年)や『燃えよドラゴン』(73年)におけるブルース・リーのカンフー、空手殺法は真剣そのもので、鬼気迫るものだったし、ストーリーもかなり深刻なものだった。ブルース・リー亡き後(1973年7月20日死亡)、ポスト・ブルース・リーと期待されたジャッキー・チェンはなかなか芽が出ず、

ブルース・リーとは全く趣の違う、1978年の『ドラク・モンキー 酔拳』や『スネーキー・モンキー 蛇拳』で大ブレイクすることになった。これは、ホントは「強い」のだが、何ともユーモラスなカンフー流儀が売りモノの映画で、ジャッキー・チェン特有のもの。

もともと、ジェット・リー（李連杰）主演の中国映画『少林寺』（1982年）でも、酔っぱらいの少林寺の小虎坊主が生み出した『酔拳』が紹介されていたが……。そのジャッキー・チェンもあれから既に15年経ったのだから、今はちょうど50歳。

カンフーの技術に衰えはないものの、その風貌がかなりオジサン風になってきたことは否定できない。しかし、その面白さは昔と全く同じ。理屈抜きに楽しむことが出来るジャッキー・チェン流活劇は今も健在だ。

### <ハイライトは花火の中で>

今日は、ビクトリア女王の在位50周年の記念式典がテムズ河畔で開催される日。この式典の、いわば実行委員長がラズボーン卿。花火が舞い上がる中、新たな武器である2000連発の機関銃で、ビクトリア女王以下の王族たちを一挙に抹殺しようと狙うのはウー・チャウ。ウー・チャウに扮するドニー・イェンは、あの『HERO（英雄）』（03年）で、刺客長空を演じ、お見事な長槍捌きを見せた俳優。

ところがこの映画では、卑怯にも（?）、新式の「飛び道具」を扱っている。もともとカンフーの使い手としては、ウエンと対等の戦いを展開していたが、妹リンの花火の発射筒の餌食となってジ・エンド。この彼の扱いはちょっとかわいそう……。

意外と強いのは、ラズボーン卿。さすが英国紳士だけあって、剣の使い方はお見事。大時計の塔上でのラズボーン卿とウエンとの剣による対決ではウエンもたじたじ。いや、明らかに旗色が悪い。2回も3回も剣を振り払われ、キズつけられる始末。「さあ、もう一度」というラズボーン卿の「余裕」によって何回も勝負をさせてもらっているが、このままではウエンが返り討ちになるのは明らか……。そんな中、ウエンが取った捨て身の戦法は……？

### <いつも面白いNG集>

最近ヒットしたジャッキー・チェン主演の『ラッシュアワー2』（01年）でも、字幕が流れ終わった後、いくつかの場面についてのNG集が紹介されたが、これが結構面白かった。そしてこの映画でも同様のサービスがある。いかにジャッキー・チェンでも、すべてのアクション場面を一発で見事にこなしているわけではない。当然失敗して、頭を打ったり、ヤバイ目に会ったことが何回もあるはず。

この映画でも、そんなNG場面がいっぱい。そのうち、プロ野球の試合でのNGとなるべきシーンを集め、これを司会者のみのもんたが、面白おかしくセリフをつけた人気番組、「珍プレー、好プレー」のような、ジャッキー・チェン主演のNG集映画ができるか

も・・・？

2003（平成15）年11月17日記